

会議名	令和2年度 第3回 新潟市区自治協議会会長会議 会議概要
開催日時	令和3年3月12日(金) 午後2時~3時30分
会場	新潟市役所本館3階 対策室1
出席委員	松田会長(北区)、後藤会長(東区)、小林会長(江南区)、金子会長(秋葉区)、小田会長(南区)、下川会長(西区)、長井会長(西蒲区)、外内会長(中央区)
主な 議事内容	<p>議題(1) 区自治協議会(第7期)を振り返って</p> <p>○第7期を振り返っての成果と課題について、各会長より資料に基づき説明がありました。説明後には、中原市長から意見・感想をいただきました。</p> <p>【市長コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間のうちこの1年間は、自治協議会においても新型コロナウイルスの影響が大変大きかったことを強く感じたが、活発な部会活動に取り組んでいただく中で、感染症対策をしっかりと講じた上で、工夫して実施していただけたことに感謝したい。 ・自治協議会の運営については、協議会が少し高い位置付けにあるためか、なかなか発言しにくいとの話があったが、積極的なご意見をいただけるよう、会長が大変心掛けて運営を行っていたことを感じた。 ・区自治協議会提案事業については、地域の課題解決に向けて慎重に検討を行ったうえで、取り組み内容を見直すことを取り入れており、委員の皆さんの事業効果をより高めていきたいという意欲が強く感じられた。 ・地域へのフィードバックの難しさを感じているとの意見があったが、自治協議会の活動を地域の方と共有いただき、一緒に課題を解決して行くことが自治のレベルを向上させる第一歩だと思う。ぜひ、今後も自治協議会の地域へのフィードバックを通じて、地域の皆様と一緒に市政・区政を考えていきたい。 <p>○金子会長(秋葉区)より、新型コロナに関する区民の声を集めたが、感染症そのものよりも、感染症による社会的混乱で日常的なことが出来なくなる不自由に対する不安といった意見が多かった。市や自治協議会ができることは、コロナ禍で少しでも希望がもてるような発信が大切であると感じているとの意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長より、現在「地域で弁当交流応援事業」を実施しているので、ぜひ、地域活動のきっかけに役立てていただきたいし、また打撃を受けている地域のお店を支援していきたいと回答がありました。

○長井会長（西蒲区）より、地域でのまつりなど、イベントが今後行われてく
ると思うが、そういった地域でのイベントの市の取扱いについてご意見いた
だきたいと発言がありました。

- ・市長より、地域における参加者が限られている、すなわちコミュニティとし
て人員が把握できる範囲のイベントについては、適切な感染防止対策を徹底
したうえで開催できるとしているの、ぜひ相談をしながら対応していただ
きたいと回答がありました。

○外内会長（中央区）より、第1部会で作成した「Furumachi ランチマップ」
の完成したマップの見本を見せて、市長や各区の会長に向けて、ぜひ古町へ
お立ち寄りの際は利用してほしいとの案内がありました。

議題（2）その他

○市民協働課長より、以下の3点について報告がありました。

- ・区自治協議会提案事業の弾力的運用について、地域活動団体との連携事業
を行う際の対象を、区外の地域活動団体も対象とすることとなった。
- ・コロナ禍におけるイベントのやり方について、冊子作成を予定しており、
コミュニティ協議会、自治会・町内会に発送予定である。
- ・4月18日号の市報にいがたで地域活動をテーマにコミュニティ協議会、自
治会・町内会についての特集号を発行予定である。

中央区自治協議会（第7期）を振り返って

中央区自治協議会会長 外内 光春

1 はじめに

第7期区自治協議会は、第6期で定めた「中央区自治協議会の方向性」を踏まえ、全体会の運営や部会活動を行い、審議・検討や地域課題の解決に向けて取り組んできました。

また、令和2年1月に国内で初めて確認された新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）に対しても、コロナ対策を検討・実践しながら活動を続けてきました。部会では、コロナの影響で活動が思うように進められない場面もありましたが、委員それぞれが自発的に課題に取り組み、最後までやり遂げることができました。以下、その成果と課題を振り返ります。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア コロナ対策について

令和2年1月15日に国内で初めてコロナへの感染が確認され、2月中旬からは全国で感染者が散発していることなどを踏まえ、2月の全体会は開催中止とし、書面送付のみ行いました。以降も、国のコロナ対策の基本方針や緊急事態宣言を踏まえ、3回にわたり書面開催とすることで、感染拡大防止に努めました。

5月14日に県の緊急事態宣言が解除されたことを受け、6月の全体会から参集する形での会議を再開しました。開催にあたっては、運営ガイドラインを設け、出席者の密集・密接を回避するための会場選択や座席の配置、出席者への感染防止対策の徹底などの対策を講じることで、安心・安全な会議運営に努めてきました。

イ 審議・検討に重きをおいた取組み

全体会では、必要な案件を整理し、要点を絞った簡潔でわかりやすい資料作成や原則資料の事前配布を担当課・事務局にお願いすることで、委員が議論しやすく地域の意見を届けやすい会の運営を心掛けました。

また、特色ある区づくり予算においても、審議・検討に重きを置いて取り組みました。「区役所企画事業」については、部会ごとに事業を振り分け、担当課

より事業成果や次年度の取組内容を説明してもらい意見交換を行うことで、委員からの建設的な意見・提案等を各事業に反映してもらいました。「区自治協議会提案事業」についても、イベント中心ではなく、各部会での課題解決に向けた審議・検討を十分に行ったうえで、委員自らが深掘調査やモデル事業の実施を行いました。この方針により、コロナ禍においても柔軟に取組内容を見直しながら、事業を推進することができました。

ウ 委員向け研修会の実施

中央区自治協議会委員を対象とした区独自の研修会を開催しました。

令和元年度は、令和元年6月18日発生の新潟・山形県沖の地震をきっかけとして、防災に関する研修会を開催しました。区役所担当課からの説明や防災士（委員）によるワークショップなどを実施し、災害対策や避難所運営について学ぶことで、地域での活動に役立ててもらえたものと考えています。

令和2年度は、第4部会のテーマ「空き家対策」について委員で考える研修会を開催しました。空き家の問題は、個人の問題であるとともに、地域における課題にもつながることから、空き家問題に関する状況の情報を共有し、今後、地域として空き家問題に取り組んでもらうためのきっかけとすること、また、委員同士の交流や相互理解を図ることを目的に開催しました。

多くの委員から出席してもらい、講義やグループワークを通して課題を共有し、ひいては地域にも空き家に対する問題意識を共有してもらうことができたと考えています。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、「商店街、産業／まちなか回遊、交流人口」の分野を所管する部会です。

第7期では「古町・本町商店街の活性化」をテーマに、商業施設の閉店や新たな施設（古町ルフル等）のオープンなど、古町・本町エリアが生まれ変わるこの機会に、古町・本町商店街に対して今後の賑わいづくりの取組みにつなげてもらおうとアンケート調査を実施しました。また、このアンケート結果から同エリアでの飲食店利用が多いことがわかり、新潟中心商店街協同組合と協働してランチマップを作成し、周辺事業所へ配布することで、商店街の活性化に寄与したものと考えています。

イ 第2部会

第2部会は、「協働、健康・福祉」の分野を所管する部会です。

第7期では、赤ちゃんからお年寄りまでの幅広い世代を対象に、地域の抱える福祉分野の課題を解決する地域内の支えあいづくりを目的として、提案型に

よる協働事業を実施しました。

採択された4事業に対し、助言やサポートを行い、実効性の向上を図りました。

ウ 第3部会

第3部会は、「教育連携・社会教育／防災・防犯／歴史・文化」の分野を所管する部会です。

部会では、子どもたちの防災意識を高め、安全に避難行動がとれるようにし、併せて地域の歴史を学び愛着・誇りづくりにつなげることを目的に、「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き～みまもるマップをつくる～」のマニュアルを作成し、小学校に配布しました。今後、このまち歩きの手法を多くの小学校で、実践・活用してもらい、防災授業や歴史の学びにつなげてほしいと考えています。

エ 第4部会

第4部会は、「都市機能、まちなみ／生活環境／水辺、緑化」の分野を所管する部会です。

「住環境の再生」を柱として、令和元年度は「バスを中心とした公共交通」をテーマに住民・利用者の視点から公共交通の課題や解決策を検討しました。令和2年度は「空き家対策」をテーマに、空き家問題は個人だけでなく地域としての課題であることを認識してもらい、適切な空き家管理や活用を進めてもらおうと、委員を対象に研修会を開催しました。さらに、研修会の中でグループワークを行い地域の意見をまとめ、今後の空き家対策の取組みにつなげました。

オ 中央区自治協議会だより編集部会

中央区自治協議会だより編集部会では、区自治協議会がどのような組織であるか、どのような活動を行っているのか、その基本的な疑問を意識しながら「中央区自治協議会だより」を年2回発行しました。コロナの影響により、当初考えていた取材ができずに、紙面構成を変更することもありましたが、読み手の視点を考え、工夫して取り組むことで、認知度向上に努めました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、第6期で定めた「中央区自治協議会の方向性」に基づき、委員構成や部会活動が大きく変わり、これまでの区自治協議会から一新されたスタートでした。新任委員も多く、最初は戸惑いを感じる委員もいたことと思います。「厳粛な雰囲気

気のある全体会での発言は緊張してなかなかしづらい」との声を受け、協議したい案件や地域課題などの提案を書面で受け付ける形を設け、各地域での課題を共有しました。また、取り扱う議事を整理し、これまで原則毎月行われてきた全体会について、休止する月を設けることで、議事の集中と委員の負担軽減を図りました。今後も、活発な議論の場となるよう試行錯誤を重ねてもらい、委員それぞれが地域課題に積極的に関わることができるよう期待します。

次に、今期はコロナの影響を受け、全体会の中止や書面開催、感染拡大防止策などのこれまでとは違った対応をとることを余儀なくされました。部会活動においても、事業計画の見直しや調整などが必要となりました。このような状況においても、委員一人ひとりが状況を理解し、柔軟に対応してきたおかげで、全体会・部会ともに大きな混乱もなく、区自治協議会提案事業も実施できました。

今後も、コロナの影響を受けることは必至で、次期委員も苦慮することは想像できます。大変な状況ではありますが、新しい体制のもと、活発な議論が行われ、区自治協議会の活動が中央区のさらなる発展につながることを期待しています。